

初期茎数確保に努めましょう！

6月は、初期の有効茎数を確保する時期です。

気象庁による5月30日以降の1ヶ月予報は、気温で60%の確率で平年よりも高く、日照時間は40%の確率で平年並となっています。

晴天の日は、浅水にして分けつの促進を図りましょう。

また、昨年秋と本年の春先の乾田化が進まなかったため、アオミドロや表土剥離の発生が始まっています。

除草剤の効果を保つため、アオミドロや表土剥離の発生が見られる場合はモゲトン剤を使用し、処理後7～10日後に除草剤を散布しましょう。

除草剤の散布は適期に適正な使用方法で！

(1) 散布適期の判断

現在、使用されている除草剤(移植後〇〇日～〇〇日と設定されている除草剤)は、仕上げ代～移植までの日数を約5日以内として散布時期が設定されています。

そのため、代かきから移植まで5日以上経過した場合は、その日数分を差し引いて、散布時期を早めましょう(初期剤は活着確認後)。

(2) 散布時～散布後の水管理について

田面の露出がないように湛水状態で止水にして散布します。

粒剤：水深3～5cm、

フロアブル：水深5cm程度

散布後7日間は入水や落水を避けて、水の移動や流出を防ぎます。

やむを得ず、差し水を行う場合はゆっくりと行いましょう。